

会 報

平成 28 年度定時社員総会

開催日時 平成 28 年 6 月 8 日 12 時 00 分から 12 時 45 分まで

開催場所 石川県立音楽堂 コンサートホール（石川県金沢市昭和町 20-1）

議事の経過および結果

定款第 38 条により森本茂人会長が議長となり、社員 630 名中 574 名（出席 91 名、委任状出席 483 名）の出席があり、定款第 40 条 1 項に定める定足数に達したので、本総会は有効に成立した旨を告げ、議事に入った。

第 1 議案 平成 27 年度事業報告、収支決算および財産目録に関する件

議長は平成 27 年度事業報告、庶務の概要、会員の異動情報（268 頁参照）について報告し、満場一致で承認された。続いて羽生春夫財務委員長が、平成 27 年度収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録（273 頁参照）を説明した。次に大石充監事より他の監事も同意見である旨を述べ、いずれも法令および定款に照らして正当であるとの報告がされた。ついで議長はその承認を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第 2 議案 平成 28 年度事業計画および収支予算の件

議長は理事会で承認を得ている平成 28 年度事業計画（274 頁参照）について報告し、承認された。続いて羽生春夫財務委員長は、平成 28 年度収支予算書（272 頁参照）について報告し、満場一致で承認された。

第 3 議案 定款、定款細則変更の件

議長は「一般社団法人日本老年医学会定款」の第 7 条第 2 項の追記、「一般社団法人日本老年医学会 定款細則」の第 2 条（一部削除）、第 3 条 2 項（追記）、第 6 条 2 項、3 項、4 項（追記）、9 条の 2 項（変更）、3 項、4 項（追記、一部修正）の変更について、議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第 4 議案 役員選任の件

議長は一般社団法人日本老年医学会定款細則 第 6 条の規定により平成 28 年度定時社員総会の終結をもって、高柳涼一理事が辞任する旨を報告し承認された。ついで議長は、その後任理事を選出したい旨を述べ、協議した結果、大石充氏（鹿兒島大学）を推薦する旨が提案され、議長が議場に諮ったところ、満場一致で承認された。続いて議長は岩本俊彦氏、江藤文夫氏、大内尉義氏、大庭建三氏、北徹氏、小林祥泰氏、島本和明氏、高柳涼一氏、土居義典氏、橋爪潔志氏、横野浩一氏を名誉会員に推薦したい旨、議場に諮ったところ、承認された。

第 5 議案 代議員選挙の件

森本茂人選挙管理委員長から平成 29 年度総会において選任される次期代議員の選挙について、選挙区毎の定数を示し、立候補受付方法等、選挙手続きについて説明があった。また本年度よりインターネットを用いた方式による実施となるため、代議員選任細則を一部変更、追記したい旨の報告があった。議場にその承認を諮ったところ、満場一致で承認された。

第 6 議案 学術集会の件

議長は、定款第 44 条に従い平成 32 年度学術集会会長を選任したい旨を述べ、理事会から推薦をうけた羽生春夫理事を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

第 7 議案 尼子賞の件

鳥羽研二顕彰委員長から世界に先駆けて老年医学の重要性に着目し、教育、研究の開拓者として後世の規範となった尼子富士郎先生の名前を冠した「尼子賞」を設け、第一回受賞者に折茂肇名誉会員が決まったことが報告された。

第 8 議案 日本老年学会の件

日本老年学会・老年医学会高齢者に関する定義検討ワーキングについて、大内尉義座長から報告書を作成中であることが報告された。

諸報告

- 1) 各種委員会から活動状況（278 頁参照）について報告された。
- 2) 議長は 9 支部地方会の開催状況について報告した。
- 3) 学術集会準備報告として、平成 29 年度学術集会準備状況について鳥羽研二会長、平成 30 年度学術集会準備状況について横出正之会長、平成 31 年度学術集会準備状況について荒井啓行会長がそれぞれ報告した。

平成27年度事業報告

I. 庶務の概要

1. 会員の異動状況(平成27年3月31日現在)

1) 会員の異動

	前年度末	入会	退会	物故者	現在数
会員数	6,025	303	225	20	6,083
(正会員・名誉会員・特別会員)					

名誉会員	23	3	-	2	24
特別会員	97	13	8	1	101
賛助会員	18	-	-	-	18

2) 役員等の異動

	前年度末	新任	退任	物故者	現在数
理事	20	1	1	-	20
監事	3	1	1	-	3
幹事	6	2	1	-	7
代議員	642	48	59	1	630
事務職員	4	-	-	-	4

3) 物故会員(敬称略)

名誉会員	入來正躬	平井俊策			
特別会員	伊藤栄一				
代議員	佐渡島省三				
正会員	石田恵一	井上修一	井上富夫	大平基之	
	川口英弘	岸川和裕	城戸栄爾	紅露恒男	
	小林良子	斎藤信次	玉城欣也	中村 徹	
	中村 洋	實積克彦	松本 孝	森成 元	
				(連絡のあった方のみ)	

2. 会議の事項

1. 総会:平成 27 年 6 月 13 日神奈川県・パシフィコ横浜会議センター

2. 理事会:

平成 27 年 4 月 14 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 5 月 12 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 5 月 27 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 6 月 11 日 神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
 平成 27 年 7 月 24 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 8 月 7 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 9 月 24 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 10 月 6 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 10 月 28 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 11 月 13 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 11 月 19 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り
 平成 28 年 2 月 19 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り

3. あり方委員会:

平成 27 年 6 月 11 日 神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
 平成 27 年 9 月 11 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

4. あり方ワーキング

平成 28 年 3 月 18 日 東京都・日本老年医学会事務所及び Web
 5. 財務委員会:

平成 27 年 6 月 11 日 神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
 平成 27 年 10 月 20 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 12 月 11 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 27 年 12 月 24 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

6. 雑誌編集委員会:

平成 27 年 6 月 11 日 神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
 平成 27 年 10 月 26 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

7. GGI 編集委員会:

平成 27 年 4 月 1 日 東京都・日本老年医学会事務所
 平成 27 年 6 月 13 日 神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
 平成 27 年 11 月 26 日 東京都・日本老年医学会事務所及び Web
 平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

8. 老人医療委員会:

平成 27 年 4 月 28 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り
 (サポート体制)
 平成 27 年 6 月 11 日 神奈川県・パシフィコ横浜会議センター

9. 高齢者医療委員会:

認知症対策小委員会:平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り
 在宅医療小委員会:平成 27 年 8 月 31 日 東京都・日本老年医学会事務所(日本在宅医学会日本在宅医学会研究委員会との合同委員会)東京都・日本老年医学会事務所(日本在宅医学会日本在宅医学会研究委員会との合同委員会)

10. 介護連携検討委員会:平成 27 年 6 月 14 日 神奈川県・パシフィコ横浜会議センター

11. 学術委員会:平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り
 12. フレイル・サルコペニア対策小委員会 平成 27 年 10 月 27 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り

平成 28 年 3 月 11 日 東京都・日本老年医学会事務所
 13. EWTOPIA75 小委員会:平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

14. 高齢者糖尿病の治療の質向上のための合同委員会:

平成 27 年 4 月 3 日 東京都・日本糖尿病学会事務所
 平成 27 年 6 月 13 日 神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
 平成 28 年 1 月 7 日 東京都・日本糖尿病学会事務所
 平成 28 年 3 月 16 日 東京都・日本糖尿病学会事務所

15. 教育委員会(新):

平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

16. 専門医制度委員会:

平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

17. 専門医制度対策ワーキング(新):

平成 28 年 1 月 12 日 東京都・日本老年医学会事務所及び Web

18. 専門医資格・施設認定小委員会

平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

19. 顕彰委員会

平成 28 年 1 月 30 日 東京都・AP 東京八重洲通り

20. 優秀論文賞選考委員会

平成 28 年 3 月 7 日 東京都・日本老年医学会事務所より持回り

21. 日本老年医学会老化および老年医学研究基金選考委員会
平成 27 年 10 月 2 日東京都・日本老年医学会事務所より持回り
平成 28 年 1 月 8 日東京都・日本老年医学会事務所より持回り
22. 倫理委員会
平成 27 年 6 月 13 日神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
23. 利益相反委員会
平成 27 年 6 月 2 日東京都・日本老年医学会事務所
平成 27 年 11 月 19 日東京都・日本老年医学会事務所より持回り
24. 学術プログラム委員会
平成 27 年 6 月 11 日神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
平成 27 年 6 月 14 日神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
平成 27 年 10 月 26 日東京都・日本老年医学会事務所より持回り
平成 28 年 1 月 30 日東京都・AP 東京八重洲通り
平成 28 年 3 月 11 日東京都・日本老年医学会事務所
25. 国際・渉外委員会
平成 27 年 6 月 11 日神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
平成 28 年 1 月 30 日東京都・AP 東京八重洲通り
26. 国内交流委員会
平成 28 年 1 月 30 日東京都・AP 東京八重洲通り
27. 広報委員会:
平成 27 年 6 月 12 日神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
28. 教育委員会(旧)
平成 27 年 6 月 11 日神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
29. 事例検討委員会:
平成 27 年 4 月 28 日東京都・日本老年医学会事務所
30. 高齢者 EBM 委員会(EWTOPIA75 試験推進会議)
平成 27 年 6 月 12 日神奈川県・パシフィコ横浜会議センター
31. 高齢者に関する定義検討ワーキング:
平成 27 年 6 月 3 日東京都・日本老年医学会事務所

II. 事業の状況

1. 学術集会等の開催(定款第 6 条 1 項)

1) 日本老年医学会年次学術集会

第 57 回日本老年医学会学術集会

会期:2015 年 6 月 12 日(木)~14 日(土)

会長:下門顯太郎(東京医科歯科大学老年病内科)

会場:パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)

参加者数: 2,197 名

学会テーマ: 良質な超高齢社会を拓くー学際的研究の進展と深化をめざしてー

会長講演:「老年医学の卒前・卒後教育」

会長要望講演 1 題及び会長講演 1 題、特別講演 1 題、シンポジウム 6 題、日韓合同シンポジウム 2 題、7 学会合同シンポジウム 10 題、合同ポスターセッション、教育セッション 15 題、ハンズオンセミナー 2 題、ノバルティス老化および老年医学研究基金 2013 年度受賞者講演 6 題、高齢者医療研修会、市民公開講座 7 題、ランチョンセミナー 21 題、スポンサー共催企画 3 題

一般演題数:280 題

2) 日本老年医学会地方学術集会

第 26 回北海道地方会

会期:2015.6.6

会場:札幌医科大学 記念ホール

会長:三浦哲嗣(札幌医科大学医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座)

発表演題:9 題

教育講演:「心不全はなぜ加齢関連疾患なのか?」塩井哲雄(京都女子大学家政学部生活福祉学科)

参加者:69 名

第 26 回東北地方会

会期:2015.10.24~25

会場:良陵会館(ごんりょうかいかん)

会長:荒井啓行(東北大学加齢医学研究所老年医学分野)

発表演題:19 題

特別講演:「超高齢社会におけるフレイルとサルコペニアの意義を考える」荒井秀典(国立長寿医療研究センター)

教育講演:「認知症の診断と治療」荒井啓行(東北大学加齢医学研究所老年医学分野)

イブニングセミナー 1:「糖尿病治療 UPDATE」五十嵐雅彦(山形市立病院済生館)

イブニングセミナー 2:「高齢者の肺疾患: COPD を中心に」長瀬隆英(東京大学大学院医学系研究科呼吸器内科学)

参加者:61 名

第 62 回関東甲信越地方会

会期:2015.9.26

会場:東京医科大学病院 6 階 臨床講堂

会長:羽生春夫(東京医科大学高齢診療科)

発表演題:24 題

特別講演:「高齢者の定義と健康について」鈴木隆雄(桜美林大学加齢発達研究、国立長寿医療研究センター)

教育講演 I:「高齢者の嚥下ニューロリハビリテーション」海老原寛(東邦大学大学院医学研究科リハビリテーション医学講座)

ランチョンセミナー:「認知症の治療、今後の展望」玉岡晃(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

教育講演 II:「サルコペニアの評価法と治療について」荒木厚(東京都健康長寿医療センター)

デザート企画:「高齢者の終末期医療を考える」英裕雄(新宿ヒロクリニック)金高秀和(東京医科大学 高齢診療科)

参加者:232 名

第 63 回 関東甲信越地方会

会期:2016.3.12

会場:東京大学伊藤国際学術研究センター伊藤謝恩ホール

会長:秋下雅弘(東京大学医学部附属病院老年病科)

発表演題:22 題

特別講演:「高齢者と医療ー新たな法的観点から」樋口範雄(東京大学法学部・大学院法学政治学研究科)

教育講演:「高齢者の生活を支える在宅医療」山中崇(東京大学医学部在宅医療学拠点)

ランチョンセミナー:「Braak 分類と Propagation theory から認知症医療を再考する」

井桁之総(国家公務員共済組合連合会虎の門病院 高齢者総合診療部・認知症疾患医療センター)

参加者:196 名

第 26 回東海地方会

会期:2015.09.26

会場:名古屋大学医学部附属病院 中央診療棟 3 階講堂

会長:富本秀和(三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学)

発表演題:25 題

教育企画:「地域包括ケア実現に向けての課題と対策」1.「都市部の地域包括ケア」赤津裕康(名古屋市立大学大学院医学研究科地域医療教育学)2.「都市部の地域包括ケア」鈴木裕介(名古屋大学大学院医学系研究科 地域包括ケアシステム学寄附講座)3.

「地方の地域包括ケア」東憲太郎(全国老人保健施設協会)シンポジウム:「超高齢社会の認知症対策」1.「認知症の IT スクリーニングと地域連携」木田博隆(三重大学大学院医学系研究科認知症医療学)2.「病院勤務医、看護師への認知症教育」宮尾眞一(名古屋市認知症疾患医療センター)3.「認知症患者の運転特性」脇田英明(藤田保健衛生大学七栗サナトリウム)4.「認知症と徘徊」どのように考え対応策を講じたらよいか?」川畑信也

特別講演:「超高齢社会におけるフレイル、サルコペニアの意義を考える」荒井秀典(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

参加者:149 名

第 26 回北陸地方会

会期:2015.10.17

会場:富山市民プラザ マルチスタジオ・AV スタジオ

会長:戸邊一之(富山大学医学部第一内科)

発表演題:14 題

教育講演:「認知症予防のためのスキーム構築」島田裕之(国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部)

市民公開講座:2015.10.17 富山市民プラザ AV スタジオ「消化管(おなか)は泣いている ～今日からできる健康長寿対策～」内藤裕二(京都府立医科大学消化器内科学)

参加者:51 名

第 26 回近畿地方会

会期:2015.11.14

会場:京都府立医科大学基礎医学学舎

会長:中川正法(京都府立医科大学大学院医学研究科医療フロンティア展開学)渡邊能行(京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学)

発表演題:40 題

特別講演:「加齢と消化器疾患-消化管から肝胆膵疾患まで-」八木信明(朝日大学歯学部附属村上記念病院消化器内科学)

市民公開講座:1.「認知症予防について」成本迅(京都府立医科大学大学院精神機能病態学)2.「高齢者のリハビリテーションについて」三上靖夫(京都府立医科大学大学院リハビリテーション医学)3.「高血圧を予防する食事と運動」東あかね(京都府立大学大学院生命環境科学研究科)

ランチョンセミナー:「生活習慣病とアンチエイジング」福井道明(京都府立医科大学大学院内分泌・代謝内科学)

参加者:140 名

第 27 回中国地方会

会期:2015.12.12

会場:広島国際会議場 B2 階 小会議室ヲ

会長:郡山達男(広島市立リハビリテーション病院)

発表演題:19 題

教育企画:「健康寿命社会を目指す我が国の医療戦略」横出正之(京都大学大学院医学研究科臨床創成医学)

ランチョンセミナー:「大動脈プラーク評価の最前線から～TEE で明らかになる塞栓源不明脳梗塞の治療戦略～」卜部貴夫(順天堂大学医学部附属浦安病院脳神経内科)

参加者:100 名

第 27 回四国地方会

会期:2016.2.21

会場:愛媛県立中央病院 講堂

会長:奥田文悟(愛媛県立中央病院)

発表演題:17 題

特別講演 I:「超高齢者医療を問うー医療現場よりの提言」三木哲郎(阪和第一泉北病院認知症疾患センター) 教育講演 I:「パーキンソン病の認知機能障害と認知症」立花久大(西宮協立脳神経外科病院) 教育講演 II:「アルツハイマー病と糖尿病:予防と新規治療の標的としてのインスリン抵抗性」大八木保政(愛媛大学 老年・神経・総合診療内科学)

ランチョンセミナー:「血管性認知症; revisited」富本秀和(三重大学神経内科・認知症医療学)

参加者:91 名

第 26 回九州地方会

会期:2016.3.5

会場:鹿児島大学医学部鶴陵会館

会長:大石充(鹿児島大学大学院心臓血管・高血圧内科学)

発表演題:28 題

特別講演:「2025 年問題に立ち向かう老年医学」楽木宏実(大阪大学大学院老年・総合内科学)

シンポジウム:「地方の高齢化に対応できる医療システムの構築」秋下雅弘(東京大学大学院医学系研究科加齢医学)「能登半島における高齢者医療」中橋毅(金沢医科大学能登北部地域医療研究所)「自宅で最後まで過ごす高齢者」田村学(おおさか往診クリニック)「地域密着型病院における高齢者総合的機能評価(CGA)の取り組み:現状と課題」桑波田聡(垂水市立医療センター垂水中央病院循環器内科)「地方における高齢者医療を考える」吉岩あおい(大分大学総合内科・総合診療科)

ランチョンセミナー:「inflammaging と老化関連疾患」塩島一朝(関西医科大学内科学第二講座)

参加者:118 名

2) 第 19 回 高齢者介護・看護・医療フォーラム(定款第 6 条 6 項)

会期:2015.10.25

会場:良陵会館 2F 記念ホール

世話人:荒井啓行(東北大学加齢医学研究所)

3) 第 9 回老年医学サマーセミナー(医学部学生 4 年生から 6 年生が参加対象)(定款第 6 条 7 項)

会期:2015.7.30～31

開催地:軽井沢プリンスホテルウエスト

主催:日本老年医学会・国立長寿医療研究センター

参加者:16 名

4) 高齢者医療研修会(定款第 6 条 7 項)

① 座学形式。

修了書発行を受けるには 12 項目・8 時間の受講が必須

平成 27 年 6 月 12 日：横浜市で第 57 回学術集会主催
(参加者 141 名)
平成 27 年 11 月 7 日：東京で全日本病院協会に協力
(参加者 100 名)
平成 28 年 3 月 5 日：名古屋市で東海支部主催(参加者 79 名)
② ワークショップ形式。
修了書発行を受けるには 8 時間の受講が必須
平成 27 年 6 月 14 日：横浜市で第 57 回学術集会主催
(参加者 133 名)
平成 27 年 11 月 8 日：東京で全日本病院協会に協力
(参加者 100 名)
平成 28 年 3 月 6 日：名古屋市で東海支部主催(参加者 72 名)

2. 学会誌その他の出版物の刊行(定款第 6 条 2 項)

1. 学会誌「日本老年医学会雑誌」

- 1) 定期号第 52 巻 2 号～4 号及び第 53 巻 1 号 合計 4 冊を発行した。
- 2) Supplement 第 56 回学術集会講演抄録集として第 52 巻の Supplement を 5 月に発行した。
2. 英文誌「Geriatrics and Gerontology International」(GGI)(正式略称 Geriatr Gerontol Int)
 - 1) オンラインで Volume15 Issue4～Issue12, Volume16 Issue1～3 を発行した。
 3. 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015 を発行した。

3. 学会認定 老年病専門医、指導医、教育施設の認定(定款第 6 条 3 項)

1) 老年病専門医の認定

日本老年医学会認定 老年病専門医制度規則により第 24 回老年病専門医試験を平成 27 年 10 月 25 日、大手町サンスカイルーム(東京都千代田区)において実施した。
審議会において試験合格者を決定し、教育委員会、理事会の議を経て 35 名を認定した。

2) 指導医の委嘱

日本老年医学会認定 老年病専門医制度規則により提出された指導医申請書類の審査を実施し、新たに 44 名を認定し委嘱した。

3) 教育施設の認定

日本老年医学会認定 老年病専門医制度規則により提出された認定施設申請書類の審査を実施し、新たに 16 施設を認定した。

4) 平成 28 年 3 月 31 日の時点で認定を受けた日から満 5 年を経る老年病専門医、指導医、認定施設に対し、日本老年医学会認定老年病専門医制度規則により提出された書類の審査を実施し、専門医 204 名、指導医 66 名、認定施設 26 施設の更新を認定した。

4. 研究の奨励、研究業績の表彰(定款第 6 条 4 項)

1) 第 22 回日本老年医学会優秀論文賞

日本老年医学会雑誌第 51 巻 1 号から 6 号(平成 26 年 1 月～11 月発行)に掲載された論文の中から選考し、榎裕美、小長谷陽子、永井久美子の 3 会員を日本老年医学会優秀論文賞受賞者として平成 27 年 6 月 13 日の総会において顕彰した。

2) 第 6 回 Geriatrics & Gerontology International 優秀論文賞

GGI 誌 Volume14 に掲載された論文の中から選考し、Kenji Toba、Itsuko Kitamura、Toru Akune の 3 名を Geriatrics & Gerontology International 優秀論文賞受賞者として平成 27 年 6 月 13 日の総会において顕彰した。

3) 「第 1 回日本老年医学会 老化および老年医学研究助成」の受賞者の選考

平成 28 年 1 月 8 日の選考委員会により選考された会員：池田義之、茂木正樹、山田実

5. 内外の関連学術団体との連絡及び協力(定款第 6 条 5 項)

- 1) 加盟学術団体である日本老年学会の運営を日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年精神医学会、日本ケアマネジメント学会、日本老年看護学会と共に協議協力した。
- 2) 日本老年学会として加盟している国際老年学協会 International Association of Gerontology and Geriatrics(IAGG)の活動に参加協力した。

6. その他、目的を達成するために必要な事業(定款第 6 条 8 項)

- 1) 選挙による代議員が選任された。
- 2) 定款細則第 6 条により、大内理事長の任期が平成 27 年 6 月 13 日の定時社員総会をもって満了となり、その後任に楽木理事が就任した。
- 3) 各種委員会(あり方委員会、財務委員会、雑誌編集委員会、GGI 編集委員会、老人医療委員会、高齢者薬物療法のガイドライン作成のためのワーキンググループ、倫理委員会、利益相反委員会、介護連携検討委員会、教育委員会、専門医ワーキンググループ、事例集検討委員会、学術プログラム委員会、優秀論文賞選考委員会、ノバルティス老化および老年医学研究基金選考委員会、国際・渉外委員会、広報委員会、高齢者 EBM 委員会、選挙管理委員会、高齢者災害医療委員会、在宅医療委員会、高齢者に関する定義検討ワーキング)があつたが、理事長交替に伴い新体制の元、以下の委員会が構築され種々の活動が行われた。
あり方委員会、大学における老年医学連絡協議会設置推進 WG、財務委員会、雑誌編集委員会、GGI 編集委員会、高齢者医療委員会、認知症対策小委員会、在宅医療小委員会、高齢者災害医療小委員会、介護連携検討小委員会、高齢者医療研修会認定小委員会、学術委員会、フレイル・サルコペニア対策小委員会、EWTOPIA75 小委員会、高齢者薬物療法のガイドライン作成 WG、高齢者の生活習慣病管理ガイドライン作成 WG、高齢者糖尿病の治療の質向上のための合同委員会、教育委員会、専門医制度委員会、新専門医制度対策 WG、専門医試験作成・認定小委員会、専門医資格・施設認定小委員会、専門医カリキュラム・プログラム小委員会、顕彰委員会、優秀論文賞選考委員会、老化および老年医学研究助成選考委員会、倫理委員会、利益相反委員会、学術プログラム委員会、国際・渉外委員会、国内交流委員会、広報委員会、選挙管理委員会、高齢者に関する定義検討ワーキング

I. 収支計算書

(自平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位:円)

科目	予算額	決算額	増減	備考
1. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
(1) 基本財産運用収入	(6,000)	(5,013)	(987)	
(2) 基本財産利息収入	(82,800,000)	(81,077,000)	(1,723,000)	
(3) 正会員会費収入	81,000,000	79,277,000	(1,723,000)	
賛助会員会費収入	1,800,000	1,800,000	0	
(4) 学術集会収入	(118,230,000)	(150,149,496)	(△ 31,919,496)	
参加費収入	18,000,000	28,275,000	△ 10,275,000	
協賛収入	16,000,000	41,040,000	△ 25,040,000	
雑収入	32,000,000	31,850,469	149,540	
支部・地方会収入	25,000,000	24,134,255	865,745	
会誌発行収入	2,000,000	1,213,440	786,560	
別刷代掲載料等収入	2,000,000	1,697,500	302,500	
会誌購読頒布代収入	1,000,000	88,700	911,300	
書籍頒布代収入	2,000,000	13,027,430	△ 11,027,430	
専門医制度収入	1,000,000	700,000	300,000	
専門医審査料収入	1,380,000	1,050,000	330,000	
専門医認定料収入	5,000,000	4,300,000	700,000	
専門医更新料収入	800,000	812,000	△ 12,000	
セブルフ解答用紙収入	50,000	0	50,000	
雑収入	2,000,000	720,000	1,280,000	
老人保健施設管理医師研修会収入	10,000,000	1,240,711	8,759,289	
寄付金収入	(5,000,000)	(5,000,000)	(0)	
(5) 雑受取利息収入	(2,050,000)	(446,791)	(1,603,209)	
雑受取利息収入	50,000	41,714	8,286	
雑受取利息収入	2,000,000	405,077	1,594,923	
事業活動収入計(A)	208,086,000	236,678,300	△ 28,592,300	
2. 事業活動支出				
(1) 事業費支出	(190,020,000)	(204,803,712)	(△ 14,783,712)	
学術集会等開催事業費支出	57,700,000	78,530,396	△ 20,830,396	
学術集会会場費支出	19,000,000	26,963,948	△ 7,963,948	
地方会運営費支出	3,000,000	5,945,475	△ 2,945,475	
教育企画運営費支出	1,600,000	900,000	700,000	
支部・地方会支出	25,000,000	22,005,536	2,994,464	
会誌等出版事業費支出	12,000,000	12,798,271	△ 798,271	
会誌印刷製本費支出	5,000,000	4,044,405	955,595	
会誌通信運搬費支出	1,000,000	115,260	884,740	
英文誌発行費支出	15,820,000	14,190,208	1,629,792	
専門医制度事業費支出	8,000,000	6,305,725	1,694,275	
専門医制度運営費支出	1,500,000	736,878	763,122	
試験実施費支出	200,000	0	200,000	
電算機プログラム作成費支出	2,000,000	626,940	1,373,060	
研修会支出	10,000,000	0	10,000,000	
老人保健施設管理医師研修会支出	0	0	0	
学生・研修医部会支出	6,000,000	600,000	5,400,000	
研究奨励事業費支出	5,000,000	5,000,000	0	
優秀論文賞費支出	1,400,000	2,541,350	△ 1,141,350	
加盟学術団体負担金支出	9,500,000	12,604,562	△ 3,104,562	
国際交流事業費支出	1,500,000	0	1,500,000	
広報活動費支出	2,000,000	1,102,840	897,160	
選挙関係費支出	0	0	0	
会議費支出	1,500,000	1,280,545	219,455	
旅費交通費支出	3,800,000	5,899,211	△ 2,099,211	
通信運搬費支出	1,500,000	731,613	768,387	
印刷製本費支出	1,200,000	946,038	253,962	
消耗品費支出	1,000,000	934,511	65,489	
2. 管理費支出	(39,170,177)	(39,170,177)	(0)	
人件費支出	21,500,000	17,420,596	6,079,404	
福利厚生費支出	4,000,000	3,453,407	546,593	
旅費交通費支出	2,200,000	778,775	1,421,225	
会議費支出	1,200,000	185,184	1,014,816	
通信運搬費支出	2,000,000	1,131,031	868,969	
印刷製本費支出	1,000,000	581,734	418,266	
消耗品費支出	2,600,000	2,161,844	438,156	
光熱水料支出	700,000	513,425	186,575	
賃借料支出	7,800,000	7,849,092	△ 49,092	
事務所至送料支出	900,000	604,800	295,200	
委託料支出	3,300,000	3,269,050	30,950	
電算機保守料等支出	1,000,000	930,406	69,594	
加盟団体分担金支出	500,000	30,000	470,000	
電算機プログラム作成費支出	300,000	260,833	39,167	
雑費支出	241,770,000	243,973,889	△ 2,203,889	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 33,684,000	△ 7,295,589	△ 26,388,411	
II. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
(1) 特定資産取崩収入	(9,000,000)	(0)	(9,000,000)	
研究助成積立資産取崩収入	5,000,000	0	5,000,000	
設備積立資産取崩収入	2,000,000	0	2,000,000	
整備積立資産取崩収入	2,000,000	0	2,000,000	
投資活動収入計(D)	9,000,000	0	9,000,000	
2. 投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出	(1,200,000)	(5,617,241)	(△ 4,417,241)	
定額法引当資産取得支出	1,200,000	3,488,522	△ 2,288,522	
支部・地方会積立資産取得支出	0	2,128,719	△ 2,128,719	
投資活動支出計(E)	1,200,000	5,617,241	△ 4,417,241	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	7,800,000	△ 5,617,241	13,417,241	
III. 予備費	(465,000)	(0)	(465,000)	
当期収支差額(G)=(C)+(F)+(G)	△ 26,349,000	△ 12,912,830	△ 13,436,170	
前期繰越収支差額(H)	123,748,664	123,748,664	0	
次期繰越収支差額(I)=(H)+(G)	97,399,664	110,835,834	△ 13,436,170	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収入金、前払費用、前受金及び立替金・預り金を含むこととしている。なお、当期末残高は2.に記載のとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科目	前期末残高	当期末残高
現金預金	115,960,235	106,266,013
未収入金	2,658,000	6,751,305
前払金	11,400,000	2,500,000
合計	130,018,235	116,517,318
未払金	3,898,560	3,832,984
前受金	978,000	978,000
預り金	829,011	571,000
仮受金	600,000	300,000
合計	6,205,571	5,683,984
次期繰越収支差額	123,748,664	110,835,834

II. 正味財産増減計算書

(自平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用収入	(5,013)	(5,000)	(13)
基本財産利息	5,013	5,000	13
② 受取会費収入	(81,077,000)	(83,609,000)	(△ 2,532,000)
正会員会費	79,277,000	81,809,000	△ 2,532,000
賛助会員会費	1,800,000	1,800,000	0
③ 事業収益	(150,149,496)	(133,391,091)	(△ 16,758,405)
学術集会収益	28,275,000	19,062,000	9,213,000
参加費	14,040,000	37,065,000	3,975,000
協賛	31,850,469	25,387,231	6,463,229
雑	24,134,255	33,103,676	△ 8,969,421
支部・地方会収益	1,213,440	1,742,400	△ 528,960
会誌発行	1,697,500	2,495,145	△ 797,645
別刷代掲載料等	88,700	143,180	△ 54,480
書籍購読頒布代	13,027,430	3,519,390	9,508,040
専門医制度	700,000	439,920	260,080
専門医審査料	1,050,000	540,000	510,000
専門医認定料	4,300,000	6,040,000	△ 1,740,000
専門医更新料	812,000	760,000	52,000
セブルフ解答用紙	0	330,735	△ 330,735
雑収益	720,000	1,557,393	△ 837,393
研修会	1,240,711	1,205,021	35,690
老人保健施設管理医師研修会	(5,000,000)	(10,000,000)	(△ 5,000,000)
④ 受取寄付金	5,000,000	10,000,000	(△ 5,000,000)
⑤ 雑受取利息	(446,791)	(49,982)	(△ 396,809)
雑受取利息	41,714	46,982	(△ 5,268)
雑受取利息	405,077	3,000	402,077
経常収益計(A)	236,678,300	227,055,073	9,623,227
(2) 経常費用	(204,803,712)	(174,405,936)	(△ 30,397,776)
① 事業費	78,530,396	62,530,495	15,999,901
学術集会等開催事業費	26,963,948	9,898,065	17,065,883
学術集会会場費	5,945,475	3,129,491	2,815,984
地方会運営費	900,000	900,000	0
教育企画運営費	22,005,536	32,007,064	△ 10,001,528
支部・地方会	12,798,271	13,768,794	△ 970,523
会誌等出版事業費	4,044,405	4,012,609	31,796
会誌印刷製本費	115,260	856,957	△ 741,697
会誌通信運搬費	14,190,208	10,521,256	3,668,952
英文誌発行費	6,305,725	8,063,078	△ 1,757,353
専門医制度運営費	736,878	931,120	△ 194,242
試験実施費	0	0	0
電算機プログラム作成費	626,940	468,728	158,212
研修会費用	0	0	0
老人保健施設管理医師研修会支出	600,000	600,000	0
研究奨励事業費	5,000,000	9,000,000	△ 4,000,000
優秀論文賞費	2,541,350	1,746,150	795,200
研究基金	12,604,562	7,204,628	5,399,934
加盟学術団体負担金	0	435,150	△ 435,150
啓発事業費	1,102,840	1,032,602	70,238
国際交流事業費	0	535,600	△ 535,600
広報活動費	1,280,545	829,789	450,756
選挙関係費	5,899,211	3,701,775	2,197,436
会議費	731,613	978,013	△ 246,400
旅費交通費	946,038	945,016	1,022
通信運搬費	934,511	309,486	625,025
印刷製本費	(42,716,765)	(45,595,994)	(△ 2,879,229)
消耗品費	17,420,596	16,632,426	788,170
賃借料	3,488,522	2,946,641	541,881
人件費	3,453,407	3,299,938	153,469
福利厚生費	778,775	1,971,493	△ 1,192,718
旅費交通費	185,184	655,326	△ 470,142
会議費	1,131,031	1,103,985	27,046
通信運搬費	581,734	821,487	△ 239,753
印刷製本費	2,161,844	4,211,129	△ 2,049,285
消耗品費	513,425	654,105	△ 140,680
光熱水料	7,849,092	8,412,307	△ 563,215
賃借料	604,800	604,800	0
事務所至送料	3,269,050	3,130,195	138,855
委託料	930,406	888,545	41,861
電算機保守料等	30,000	230,000	△ 200,000
振込手数料	0	0	0
加盟団体分担金	0	0	0
電算機プログラム作成費	58,066	33,617	24,449
減価償却費	260,833	0	260,833
雑費	247,520,477	220,001,930	27,518,547
経常費用計(B)	△ 10,842,177	7,053,143	△ 17,895,320
当期経常増減額(C)=(A)-(B)	△ 10,842,177	7,053,143	△ 17,895,320
当期一般正味財産増減額(D)=(C)	230,472,255	223,419,112	7,053,143
一般正味財産期首残高(E)	219,630,078	230,472,255	△ 10,842,177
一般正味財産期末残高(F)=(D)+(E)	0	0	0
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額(G)	20,000,000	20,000,000	0
指定正味財産期首残高(H)	20,000,000	20,000,000	0
指定正味財産期末残高(I)=(G)+(H)	239,630,078	250,472,255	△ 10,842,177
III. 正味財産期末残高(J)=(F)+(I)			

III 貸借対照表

平成28年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現預金	20,474	313,196	△ 292,722
預取払金	106,245,539	115,647,039	△ 9,401,500
前払金	6,751,805	2,658,000	4,093,805
流動資産合計	116,517,818	130,018,235	△ 13,500,417
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
① 退職積立資産	20,690,360	17,201,838	3,488,522
② 国際関係費積立資産	18,302,589	18,302,589	0
③ 書籍刊行積立資産	7,401,501	7,401,501	0
④ 研究助成積立資産	27,322,034	27,322,034	0
⑤ 設備積立資産	17,098,175	17,098,175	0
⑥ 整備積立資産	5,500,882	5,500,882	0
⑦ 事務所費用積立資産	5,451,926	5,451,926	0
⑧ 支部・地方会積立資産	20,966,814	18,838,095	2,128,719
特定資産合計	122,734,281	117,117,040	5,617,241
(3) その他固定資産			
① 建物附属設備	35,670	44,586	△ 8,916
② 什器備品	141,653	190,803	△ 49,150
③ 電話加入権	216,000	216,000	0
④ 保証金	6,357,000	6,357,000	0
その他固定資産合計	6,750,323	6,808,389	△ 58,066
固定資産合計	149,484,604	143,925,429	5,559,175
資産合計	266,002,422	273,943,664	△ 7,941,242
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,832,984	3,898,560	△ 65,576
前受金	978,000	942,000	36,000
預り金	571,000	829,011	△ 258,011
仮受金	0	600,000	△ 600,000
流動負債合計	5,381,984	6,269,571	△ 887,587
2. 固定負債			
退職給付引当金	20,690,360	17,201,838	3,488,522
固定負債合計	20,690,360	17,201,838	3,488,522
負債合計	26,072,344	23,471,409	2,600,935
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
指定正味財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	(20,000,000)	(20,000,000)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(219,630,078)	(230,472,255)	(10,842,177)
(うち特定資産への充当額)	(102,043,921)	(99,915,202)	(2,128,719)
正味財産合計	239,630,078	250,472,255	△ 10,842,177
負債及び正味財産合計	265,702,422	273,943,664	△ 8,241,242

IV 財産目録

平成28年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額
II 負債の部	
1. 流動負債	
1) 未	
認定医制度運営費	739,230
地方印刷製本費	232,551
信託運搬費(事業)	19,913
通品英話(管理)	8,230
消耗品費(管理)	1,648,137
広報活動費	6,229
福厚生費(管理)	99,360
通信運搬費(管理)	477,360
福厚生費(管理)	57,720
通信運搬費(管理)	8,541
福厚生費(管理)	16,829
福厚生費(管理)	49,248
福厚生費(管理)	381,400
未受金	3,832,984
2) 前	
正受金	978,000
前受金	978,000
3) 預	
源泉所得預り金	324,891
住民税預り金	63,700
社会保険預り金	182,409
預り金	571,000
4) 仮	
長寿前受金の寄附金	300,000
前受金の寄附金	300,000
流動負債合計	5,681,984
2. 固定負債	
1) 退職給付引当金	20,690,360
負債合計	26,372,344
	239,630,078

財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

建物付属設備及び器具備品・・・定率法による減価償却を実施している。

(2) 引当金の計上基準

退職給付引当金・・・期末退職給与の自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(3) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小 計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	17,201,838	3,488,522	0	20,690,360
国際関係費積立資産	18,302,589	0	0	18,302,589
書籍刊行積立資産	7,401,501	0	0	7,401,501
研究助成積立資産	27,322,034	0	0	27,322,034
施設積立資産	17,098,175	0	0	17,098,175
整備積立資産	5,500,882	0	0	5,500,882
事務所費用積立資産	5,451,926	0	0	5,451,926
支部・地方会積立資産	18,838,095	28,821,168	26,692,449	20,966,814
小 計	117,117,040	32,309,690	26,692,449	122,734,281
合 計	137,117,040	32,309,690	26,692,449	142,734,281

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	(20,000,000)	(0)	—
小 計	20,000,000	(20,000,000)	(0)	—
特定資産				
退職給付引当資産	20,690,360	(0)	(0)	(20,690,360)
国際関係費積立資産	18,302,589	(0)	(18,302,589)	—
書籍刊行積立資産	7,401,501	(0)	(7,401,501)	—
研究助成積立資産	27,322,034	(0)	(27,322,034)	—
施設積立資産	17,098,175	(0)	(17,098,175)	—
整備積立資産	5,500,882	(0)	(5,500,882)	—
事務所費用積立資産	5,451,926	(0)	(5,451,926)	—
支部・地方会積立資産	20,966,814	(0)	(20,966,814)	—
小 計	122,734,281	(0)	(102,043,921)	(20,690,360)
合 計	142,734,281	(20,000,000)	(102,043,921)	(20,690,360)

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物付属設備	2,561,713	2,526,043	35,670
器具備品	5,527,983	5,386,330	141,653
合 計	8,089,696	7,912,373	177,323

IV 財産目録

平成28年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額
I 資産の部	
1. 流動資産	
1) 現預金	20,474
2) 普	
みずほ銀行本郷支店	9,244,467
みずほ銀行本郷支店	20,644,809
みずほ銀行本郷支店	33,239,297
三菱東京UFJ銀行春日町支店	113,137
普通預金	63,241,710
郵便振替	23,397,458
郵便振替	7,007,872
郵便振替	30,405,330
3) 定	
三菱東京UFJ銀行春日町支店	2,598,499
本郷郵便局	10,900,000
定期預金	12,598,499
4) 未	
正取金	6,751,805
未取金	6,751,805
6) 前	
教養事業運営費	700,000
研究会費	2,800,000
前払金	0
前払金	3,500,000
流動資産合計	116,517,818
2. 固定資産	
1) 基	
礎定期預金	20,000,000
2) 特	
定退職給付引当資産	20,690,360
(1) 退	
職みずほ銀行本郷支店	6,320,982
みずほ銀行本郷支店	14,369,378
(2) 国	
際国際関係費積立資産	18,302,589
(3) 書	
籍みずほ銀行本郷支店	7,401,501
(4) 研	
究みずほ銀行本郷支店	27,322,034
(5) 設	
備みずほ銀行本郷支店	17,098,175
(6) 整	
備みずほ銀行本郷支店	5,500,882
(7) 事	
務みずほ銀行本郷支店	5,451,926
(8) 支	
部・地方会積立資産	20,966,814
特定資産合計	122,734,281
3) そ	
の他建物附属設備	35,670
(1) 建	
物「ア・フ・ライント」他2点	141,653
(2) 什	
器収納庫他4点	216,000
(3) 電	
話(03)3814-8104他2本	6,357,000
(4) 保	
杏林ヒール702号	6,750,323
その他固定資産合計	149,484,604
固定資産合計	266,002,422

一般社団法人日本老年医学会

監事 大石 充 ◎
監事 新村 健 ◎
監事 山田 祐一郎 ◎

監査報告書

私たち監事は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの当法人の事業年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第99条第1項の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要会議に出席し、理事及び使用人等から財産の状況及び職務の執行について報告を受け、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。

さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について監査しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。

② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は当法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

平成28年5月30日

一般社団法人日本老年医学会
理事長 樂木 宏実 殿

一般社団法人日本老年医学会

監事 大石 充 ◎
監事 新村 健 ◎
監事 山田 祐一郎 ◎

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

私たち監事は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの当法人の事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第99条第1項の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及びその使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、書類等を閲覧することにより、公益目的支出計画実施報告書が、法令又は定款に従い、当法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているかどうかについて監査を行った。

2 監査の結果

(1) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、当法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以上

1. 学術集会等の開催(定款第6条1項)

1) 日本老年医学会年次学術集会

第58回日本老年医学会学術集会

会期:2016年6月8日(水)~10日(金)

会長:森本茂人(金沢医科大学 高齢医学科 主任教授)

会場:石川県立音楽堂, ANA クラウンプラザホテル金沢, 金沢市アートホール

学会テーマ:地域で創る健康長寿と老年医学

会長講演:「高齢医学研究の軌跡」

森本茂人(金沢医科大学 高齢医学科 主任教授)

招聘講演1:“Developing Geriatric Services in Rapidly Aging Taiwan”

Prof. Liang-Kung Chen.Taipei Veterans General Hospital

招聘講演2:“Cognitive Training and Prevention of Dementia in Community-residing Older Adults”

Prof. Joe Verghese, MB, BS, MS, Albert Einstein College of Medicine, NY

特別講演1:「免疫細胞と健康長寿」華山力成(金沢大学 免疫生体防御学)

特別講演2:「高齢者の就労:その介護予防的意義から健康管理まで」渡辺修一郎(桜美林大学大学院 老年学研究科)

特別講演3:「楽しくなければ運動にならない」西川右近(西川流 総師)

日本学術会議【主催】日本老年医学会【共催】シンポジウム 超少子・高齢社会の進展と医療の未来像

司会:大島伸一(国立長寿医療研究センター、日本学術会議老化分科会委員(前委員長))

大内尉義(虎の門病院、日本学術会議老化分科会委員長)

日本老年医学会からの提言・見解に関する講習会 ~背景と波及効果を中心に~

司会:大内尉義(虎の門病院 日本老年医学会前理事長)樂木宏実(大阪大学 日本老年医学会理事長)

Aging Science Forum「認知症研究の進歩」

司会:山田正仁(金沢大学 脳老化・神経病態学 神経内科学)

下方浩史(名古屋学芸大学 大学院 栄養科学研究科)

シンポジウム1 「高齢期におけるサルコペニアと小児期における栄養との関連を考える」

小児科学会合同シンポジウム

司会:荒井秀典(国立長寿医療研究センター)堀川玲子(国立成育医療研究センター 内分泌代謝科)

シンポジウム2 「在宅医療委員会企画(日本在宅医学会との合同)地域のかかりつけ医による在宅医療—原点に立ち返る—」

司会:小川滋彦(小川医院)飯島勝矢(東京大学 高齢社会総合研究機構)

シンポジウム3 健康長寿を目指したロコモティブシンドロームとフレイル研究

司会 葛谷雅文(名古屋大学 地域在宅医療学・老年科学講座) 原田敦(国立長寿医療研究センター)

シンポジウム4 倫理委員会企画:質の高い人生の最終段階における医療の実践に向けて:どのように人材を育て組織化を行うか

司会:三浦久幸(国立長寿医療研究センター-在宅連携医療部) 曾

田信子(信州大学 学術研究院医学保健学域 保健学系)
シンポジウム5 高齢者薬物療法における医師・薬剤師協働の構築へ
向けて

司会: 秋下雅弘(東京大学 老年病科) 大井一弥(鈴鹿医療科学大学 大学院薬学研究所臨床薬理学 研究室)

シンポジウム6 どう生かす、高齢者の生活習慣病がトライン

司会: 大石充(鹿児島大学 心臓血管・高血圧内科学) 荒木厚(東京都健康長寿医療センター 糖尿病・代謝・内分泌内科)

シンポジウム7 健康長寿に繋がる老化研究

司会: 丸山直記(草加ロイヤルケアセンター) 大庭建三(大洗海岸コアクリニック)

シンポジウム8 地域で育てる健康長寿を目指した介護予防の展開

司会: 鈴木隆雄(国立長寿医療研究センター、桜美林大学 加齢・発達研究所) 荒井啓行(東北大学 加齢医学研究所 老年医学分野)

シンポジウム9 糖尿病による老化促進に基礎研究から迫る

司会: 山岸昌一(久留米大学医学部 糖尿病性血管合併症病態・治療学)

檜垣実男(愛媛大学 循環器・呼吸器・腎高血圧内科学)

シンポジウム10 日本人における大脳白質病変の意義と危険因子

司会: 櫻井孝(国立長寿医療研究センター) 富本秀和(三重大学 神経病態内科学)

パネルディスカッション1 心不全による再入院を減らすための多職種連携

司会: 北徹(一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団) 入谷敦(金沢医科大学 高齢医学)

パネルディスカッション2 新専門医制度の中での老年病専門医の在り方

司会: 神崎恒一(杏林大学医学部 高齢医学) 下門顕太郎(東京医科歯科大学 血流制御内科学)

パネルディスカッション3 健康長寿に向けた「骨を守る会」の全国活動について

司会: 折茂肇(医療法人財団健康院 健康院クリニック 理事長) 太田博明(山王メディカルセンター)

パネルディスカッション4 老年医学を軸とした医療介護連携

司会: 鳥羽研二(国立長寿医療研究センター 総長) 堀田聰子(国際医療福祉大学)

日韓台 老年病フォーラム Japan-Korea-Taiwan Geriatric Forum

Chairs: Masayuki Yokode, Professor and Chairman, Department of Clinical Innovative Medicine, Institute for Advancement of Clinical and Translational Science, Kyoto University Graduate School of Medicine, Japan

SangYun Kim, Director of Neurocognitive Behavior Center, Seoul National University Bundang Hospital Professor of Neurology, Seoul National University College of Medicine, Korea

若手が考える老年医学の将来展望: マスタークラス参加者からのメッセージ

Promoting overseas achievement of young geriatricians; master class of Ageing in Asia

司会: 小島太郎(東京大学 加齢医学) 杉本研(大阪大学 老年・腎臓内科学)

高齢者診療のデベートセッション

1. 「高齢者糖尿病の管理目標」
2. 「高齢者CKDに対するタンパク、食塩摂取制限: ステージ別に考える」
3. 「増加する高齢者心不全の再発予防」

4. 「高齢者の抗凝固療法をどう扱うか」

5. 「地域在住高齢者の健康長寿と食品多様性」

6. 「高齢者肺炎の治療薬選択」

7. 「後期高齢者の降圧目標: 何をターゲットにどこまで下げるか」

8. 「後期高齢者の脳梗塞急性期の管理・治療」

9. 「くり返す高齢者の誤嚥性肺炎: 予防のエビデンス」

教育講演(ミート・ザ・エキスパート)

1. 「高齢者の呼吸リハビリテーション最前線」 海老原 寛(東邦大学 リハビリテーション医学講座)

2. 「高齢者外科手術: フレイルから見た手術適応の基準」 木村理(山形大学 外科学第一講座)

3. 「再生医療最前線」 森下竜一(大阪大学 臨床遺伝子治療学)

4. 「高齢者の脳血管病変、未破裂脳動脈瘤にどう対応するか」 岡田靖(九州医療センター)

5. 「健康長寿を目指した減塩への取り組み」 土橋卓也(製鉄記念八幡病院 病院長)

6. 「高齢者認知症の診断治療に有用な新しいBPSDスコア(阿部式 BPSDスコア=ABS)の開発評価者間信頼性の検討」 阿部康二(岡山大学 神経内科)

7. 「在宅高齢者の栄養ならびに摂食嚥下障害」 榎裕美(愛知淑徳大学 健康医療科学部)

8. 「高齢者のCOPDとフレイル」 千田一嘉(国立長寿医療研究センター)

9. 「女性の妊娠・出産と高齢期の動脈硬化」 橋本正良(埼玉医科大学 総合診療内科)

10. 「災害復興と高齢者の生活機能維持」 沖永 壯治(東北大学 病院 老年科)

11. 「高齢者に対する地域ヘルスケアの構築: プータンでの試み」 坂本龍太(京都大学 東南アジア研究所)

12. 「在宅の高齢者の皮膚を護る」 須釜淳子(金沢大学 医薬保健研究域附属健康増進科学センター)

13. 「多様性のある女性医師のキャリアプラン〜地域包括ケア時代〜」 赤澤 純代(金沢医科大学 総合内科集学的医療部総合診療センター 女性総合外来)

14. 「高齢者白内障診療の最前線」 佐々木洋(金沢医科大学 眼科学講座)

15. 「合併する認知症と糖尿病の治療」 櫻井博文(東京医科大学 高齢総合医学分野)

16. 「地域における認定認知症疾患医療センターの運営と課題」 長谷川浩(杏林大学 高齢医学・同附属病院もの忘れセンター)

17. 「高齢者の循環器疾患とフレイル」 神出計(大阪大学 保健学専攻統合保健看護科学)

18. 「生活習慣と認知症の発症予防: 久山町研究」 清原裕(公益社団法人 久山生活習慣病研究所)

高齢者診療がトライン

ガイドライン1 「BPSD初期対応ガイドラインについて」 服部英幸(国立長寿医療研究センター 精神診療部)

ガイドライン2 「過活動膀胱診療ガイドライン2015」 吉田正貴(国立長寿医療研究センター 泌尿器科)

ガイドライン3 「高齢がん患者の機能評価指針 2015」 磯部威(島根大学内科学講座呼吸器・臨床腫瘍学)

ガイドライン4 「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015」 藤原佐枝子(広島原爆障害対策協議会 健康管理・増進センター)

ガイドライン5「骨粗鬆症治療における骨代謝マーカーの適正使用ガイドライン2012年版」西澤良記(大阪市立大学)

ガイドライン6「COPD(慢性閉塞性肺疾患)」横山彰仁(高知大学 血液・呼吸器内科学)

漢方実践セミナー『高齢者医療における漢方薬～効果的な使い方、今後の可能性を探る～』

司会: 荒井啓行(東北大学加齢医学研究所老年医学分野)新村健(兵庫医科大学内科学総合診療科)

認知症診療の実践セミナー

S1 認知症を理解するために必要な老年医学の知識 司会: 大内尉義(虎の門病院)

「高齢者の総合診療の視点から見た認知症診断」井桁之総(虎の門病院 高齢者総合診療部・認知症疾患医療センター)

「わが国の認知症施策の現状と今後について」栗田圭一(東京都健康長寿医療センター研究所自立促進と介護予防研究チーム)

S2 認知症診療の実際 司会 浦上克哉(鳥取大学医学部保健学科 生体制御学講座 教授) 大内尉義(虎の門病院)

「認知症診療の基礎知識」浦上克哉(鳥取大学医学部保健学科 生体制御学講座)

「問診と神経学的診察」北村伸(日本医科大学)

「画像の診かたと他の診断ツール」羽生春夫(東京医科大学 高齢総合医学分野)

「薬物治療と対応のアドバイス」中村祐(香川大学医学部 精神神経医学講座)

総合討論

公開市民講座 ～高齢者サバイバル講座～ 6題

ノルテリス老化および老年医学研究基金2014年度受賞者講演5題

<座学形式>高齢者医療研修会

<ワークショップ形式>高齢者医療研修会

一般演題 370題

2)日本老年医学会地方学術集会

第27回日本老年医学会北海道地方会

第27回日本老年医学会東北地方会

第63回日本老年医学会関東甲信越地方会

第64回日本老年医学会関東甲信越地方会

第27回日本老年医学会東海地方会

第27回日本老年医学会北陸地方会

第27回日本老年医学会近畿地方会

第28回日本老年医学会中国地方会

第28回日本老年医学会四国地方会

第27回日本老年医学会九州地方会

3)第19回高齢者介護・看護・医療フォーラム(定款第6条6項)

会期:2016年10月23日

会場:くにびきメッセ(松江市)

担当支部:中国(山口修平 島根大学)

4)第10回老年医学サマーセミナー(定款第6条7項)

主催:日本老年医学会、東京大学

会期:2016年7月28日～7月29日(1泊2日)

開催地:軽井沢プリンスホテル

対象:医学部に在籍する学生、初期研修医16名まで。学会から交通費・宿泊費実費(5万円以内)を助成する。

目的:老年医学の最前線を学ぶ

プログラム:

《総論》

「老年医学 総論と展望」柴木宏実(大阪大学老年・総合内科学)

「高齢者の定義を考える」大内尉義(虎の門病院)

《各論》

「わが国における認知症対策について」鳥羽研二(国立長寿医療研究センター)

「高齢者とフレイル・サルコペニア」荒井秀典(国立長寿医療研究センター)

「ポリファーマシー対策と服薬管理」秋下雅弘(東京大学加齢医学)

「嚥下障害と誤嚥性肺炎に対するアプローチ」海老原寛(東邦大学リハビリテーション科)

「地域包括ケアを通じた高齢社会の創生」飯島勝矢(東京大学高齢総合社会機構)

「高齢者糖尿病の新しい治療戦略」荒木厚(東京都健康長寿医療センター)

「高齢者のエンドオブライフケア」会田薫子(東京大学死生学・応用倫理センター)

「筋肉の老化に関する分子メカニズム」重本和宏(東京都健康長寿医療センター)

「高齢者の転倒と骨折」小川純人(東京大学加齢医学)

5)高齢者医療研修会(定款第6条7項)

座学形式の高齢者医療研修会(8時間程度)を開催する。

ワークショップ形式の高齢者医療研修会(8時間程度)を開催する。

2. 学会誌その他の出版物の刊行(定款第6条2項)

和文誌「日本老年医学会雑誌」

1)定期号第53巻2号～4号及び第53巻1月号 合計4冊発行予定

2)Supplement 第58回学術集会講演抄録集として第53巻のSupplementを5月に発行予定

英文誌「Geriatrics & Gerontology International」

1)月刊誌としてオンラインで年12回発行予定

3. 学会認定老年病専門医、指導医、教育施設の認定(定款第6条3項)

1)老年病専門医の認定

日本老年医学会認定 老年病専門医制度規則により第25回専門医試験を平成28年10月に東京都千代田区において実施する。受験には日本老年医学会認定老年病専門医制度に規定する研修カリキュラムに従った老年病学臨床研修を要する。試験合格者を決定し認定する。

2)指導医の委嘱

日本老年医学会認定老年病専門医制度規則により提出される指導医申請書類の審査を実施し、委嘱する。

3)教育施設の認定

日本老年医学会認定 老年病専門医制度規則により提出される認定施設申請書類の審査を実施し、認定する。

4)平成28年3月31日において認定を受けた日から満5年を経る老年病専門医、指導医、認定施設に対し、日本老年医学会認定 老年病専門医制度規則により提出される書類の審査を実施し、更新を認定する。

4. 研究の奨励、研究業績の表彰(定款第6条4項)

1)日本老年医学会優秀論文賞

和文誌:日本老年医学会雑誌第53巻1号から4号(平成28年1月

～10月発行)に掲載された論文の中から、優秀な論文を選考し、顕彰する。

2)GGI優秀論文賞

英文誌:Geriatrics & Gerontology International Vol.16 Issue1から Issue12(2016年発行)に掲載された論文の中から、優秀な論文を選考し、顕彰する。

5. 内外の関連学術団体との連絡及び協力(定款第6条5項)

1)加盟学術団体である日本老年学会の運営を、日本老年社会科学会、日本基礎老化学会、日本老年歯科医学会、日本老年精神医学会、日本ケアマネジメント学会、日本老年看護学会と共に協議協力する。

2)日本老年学会として加盟している国際老年学協会International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG)の活動に参加協力する。

6. その他

1)各種委員会

あり方委員会、大学における老年医学連絡協議会設置推進WG、財務委員会、雑誌編集委員会、GGI編集委員会、高齢者医療委員会、認知症対策小委員会、在宅医療小委員会、高齢者災害医療小委員会、介護連携検討小委員会、高齢者医療研修会認定小委員会、学術委員会、フレイル・サルコペニア対策小委員会、EWTOPIA75小委員会、高齢者薬物療法のガイドライン作成WG、高齢者の生活習慣病管理ガイドライン作成WG、高齢者糖尿病の治療の質向上のための合同委員会、教育委員会、専門医制度委員会、新専門医制度対策WG、専門医試験作成・認定小委員会、専門医資格・施設認定小委員会、専門医カリキュラム・プログラム小委員会、顕彰委員会、優秀論文賞選考委員会、老化および老年医学研究助成選考委員会、倫理委員会、利益相反委員会、学術プログラム委員会、国際・渉外委員会、国内交流委員会、広報委員会

選挙管理委員会、高齢者に関する定義検討ワーキング

2)市民公開シンポジウム

平成28年度学術集会プログラムおよび地方会プログラムの中で、また単独企画として開催する。

平成28年度 収支予算書

(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)

(単位:円)

科目	予算額	前年度予算額	増減	備考
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
基本財産運用収入	(6,000)	(6,000)	(0)	
基本財産利息収入	6,000	6,000	0	
会費収入	(81,200,000)	(82,800,000)	(△ 1,600,000)	
正会員会費収入	79,400,000	81,000,000	△ 1,600,000	
賛助会員会費収入	1,800,000	1,800,000	0	
事業収入	(107,830,000)	(118,230,000)	(△ 10,400,000)	
学術集会収入				
参加費収入	18,000,000	18,000,000	0	
協賛金収入	16,000,000	16,000,000	0	
雑収入	32,000,000	32,000,000	0	
支部・地方会収入	25,000,000	25,000,000	0	
会誌発行収入				
広告掲載料収入	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	
別刷代掲載料等収入	1,500,000	2,000,000	△ 500,000	
会誌購読頒布代収入	100,000	1,000,000	△ 900,000	
書籍頒布代収入	5,000,000	2,000,000	3,000,000	
専門医制度収入				
専門医審査料収入	1,000,000	1,000,000	0	
専門医認定料収入	1,380,000	1,380,000	0	
専門医更新料収入	4,000,000	5,000,000	△ 1,000,000	
セルフ解答用紙収入	800,000	800,000	0	
雑収入	50,000	50,000	0	
研修会収入				
研修会収入	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	
老人保健施設管理医師研修会収入	1,000,000	10,000,000	△ 9,000,000	
寄付金収入	(0)	(5,000,000)	(△ 5,000,000)	
寄付金収入	0	5,000,000	△ 5,000,000	
雑収入	(2,050,000)	(2,050,000)	(0)	
雑収入	50,000	50,000	0	
雑収入	2,000,000	2,000,000	0	
事業活動収入計(A)	191,086,000	208,086,000	△ 17,000,000	
2. 事業活動支出				
事業費支出	(178,820,000)	(190,020,000)	(△ 11,200,000)	
学術集会等開催事業費支出				
学術集会運営費支出	57,700,000	57,700,000	0	
学術集会会場費支出	19,000,000	19,000,000	0	
地方会運営費支出	3,000,000	3,000,000	0	
教育企画運営費支出	1,600,000	1,600,000	0	
支部・地方会支出	25,000,000	25,000,000	0	
会誌等出版事業費支出				
会誌印刷製本費支出	12,000,000	12,000,000	0	
会誌通信運搬費支出	5,000,000	5,000,000	0	
会誌編集費支出	500,000	1,000,000	△ 500,000	
英文誌発行費支出	15,820,000	15,820,000	0	
専門医制度事業費支出				
専門医制度運営費支出	7,000,000	8,000,000	△ 1,000,000	
試験実施費支出	1,000,000	1,500,000	△ 500,000	
電算機プログラム作成費支出	200,000	200,000	0	
研修会支出				
研修会支出	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	
老人保健施設管理医師研修会支出	1,000,000	10,000,000	△ 9,000,000	
研究奨励事業費支出				
優秀論文賞費支出	600,000	600,000	0	
研究基金支出	3,000,000	5,000,000	△ 2,000,000	
学会賞・功労賞支出	300,000	0	300,000	
加盟学術団体負担金支出	1,400,000	1,400,000	0	
啓発事業費支出	9,500,000	9,500,000	0	
国際交流事業費支出	1,500,000	1,500,000	0	
広報活動費支出	1,500,000	2,000,000	△ 500,000	
選挙関係費支出	1,000,000	0	1,000,000	
会議費支出	1,500,000	1,500,000	0	
旅費交通費支出	5,000,000	3,000,000	2,000,000	
通信運搬費支出	1,500,000	1,500,000	0	
印刷製本費支出	1,200,000	1,200,000	0	
消耗品費支出	1,000,000	1,000,000	0	
管理費支出	(50,650,000)	(51,750,000)	(△ 1,100,000)	
人件費支出	24,000,000	24,000,000	0	
福利厚生費支出	4,000,000	4,000,000	0	
旅費交通費支出	2,200,000	2,200,000	0	
会議費支出	1,200,000	1,200,000	0	
通信運搬費支出	2,000,000	2,000,000	0	
印刷製本費支出	1,000,000	1,000,000	0	
消耗品費支出	1,500,000	2,600,000	△ 1,100,000	
光熱水料支出	700,000	700,000	0	
賃借料支出				
事務所室料支出	7,800,000	7,800,000	0	
事務機器使用料支出	900,000	900,000	0	
委託料支出				
電算機保守料等支出	3,300,000	3,300,000	0	
振込手数料支出	1,000,000	1,000,000	0	
加盟団体分担金支出	250,000	250,000	0	
電算機プログラム作成費支出	500,000	500,000	0	
雑費支出	300,000	300,000	0	
事業活動支出計(B)	229,470,000	241,770,000	△ 12,300,000	
事業活動収支差額(C)=(A)-(B)	△ 38,384,000	△ 33,684,000	△ 4,700,000	
II. 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	(9,000,000)	(9,000,000)	(0)	
研究助成積立資産取崩収入	5,000,000	5,000,000	0	
設備積立資産取崩収入	2,000,000	2,000,000	0	
整備積立資産取崩収入	2,000,000	2,000,000	0	
投資活動収入計(D)	9,000,000	9,000,000	0	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	(1,200,000)	(1,200,000)	(0)	
退職給付引当資産取得支出	1,200,000	1,200,000	0	
投資活動支出計(E)	1,200,000	1,200,000	0	
投資活動収支差額(F)=(D)-(E)	7,800,000	7,800,000	0	
III. 予備費(G)				
当期収支差額(H)=(C)-(F)-(G)	△ 31,000,000	△ 26,349,000	△ 4,651,000	
前期繰越収支差額(I)	110,835,834	123,748,664	△ 12,912,830	
次期繰越収支差額(J)=(H)+(I)	79,835,834	97,399,664	△ 17,563,830	